

小さな、小さな赤ちゃんの生存

誕生時のハレア・モウラーは、ポールペン程の身長で、体重はわずか缶入り炭酸ジュースと同じ位しかなかった。12オンス10インチというあまりの小ささゆえ母アン・モウラーは、妊娠中に彼女が動いたり、お腹を蹴るのを一度も感じなかったという。だが、6月25日、ダウナーズグロブ（イリノイ州）の『よきサマリア人病院』で帝王切開により生まれた小さな、小さな女の子は、大きな興奮をもたらした。

未熟児だろうと医師達は予想していたもののあまりの小ささに驚きながら、まだ心肺機能が成長しきっていない彼女を守るための治療を急いだ。9日間人工呼吸器の中で状態を観察後、ヘルニアの手術、2種類の注射、その他いくつかの治療を行い、持ちこたえた。

生後4ヶ月を過ぎたある日、ハレアはさらに大きな興奮をもたらした。ついに退院し、自宅へ帰れることになったのである。濃茶の髪色に青い瞳の、この病院史上最小の赤ちゃんは世間で知りうる限りでも6番目に小さく生まれて助かったケースと医師達は分析する。1ポンド以下で生まれて生存している少女達のための『エリート幼

児クラブ』にハレアも加入した。「これはほんの通過点にすぎません」と母親のアン・モウラー（32歳）は、今では体重約4ポンド9オンスで、身長約15インチまで遅く育った娘を抱きながら、さらにこう語る。「私達は本当に幸運で、神に守られていたと思います」

その日、医師・看護婦・セラピスト、その他病院スタッフ一同が、もう特別な治療を受けずとも普通に育っていきけるようになったハレアの幸運を祈りつつ、さよならを告げた。「ごく普通の健康な赤ちゃんとして帰宅するのです」とよきサマリア人病院・新生児学長マイケル・フィッツジェラルド医師は語る。ハレアは『子宮内成長制限』と呼ばれる、胎盤エキスより成長に必要な十分な酸素と栄養が送られない場合に起こる、ごくまれな症状が原因で、これ程にも小さく生まれた。妊娠27週目の出産だったが、同じ時期の平均的胎児のほぼ3分の1の体重しかなかった。

生まれる2週間前、医師は両親に、赤ちゃんは小さすぎて生存は難しいだろうと説明した。そこで両親は、彼女の名前をハワイ語で『愛する人の思い出』を意味するハレアに決めた。だが彼女が母体内

でさらに1週間生き延びた時点で、周囲の希望は高まった。ハレアが子宮内ではもう生き長らえないだろうとの決断の下、医師達は帝王切開チームを作った。ハレアを取り上げた産科のマスエ・リー医師は、あまりに小さな新生児で、ウエスト回りが親指と人差し指で届いてしまうほどだったと語る。それでも彼女の全身からみなぎる生命の息吹が感じられたという。「彼女は本当に活発でした」と立ち会った新生児学者のビーバ・ターカー医師は語る。「目を大きく開き、あちこちを蹴っていました。強い赤ちゃんだ、きっと大丈夫と思ひ、事実その通りでした」当初、未熟児用の最も小さなおむつでさえもハレアには大きすぎた。父のケン・モウラー（31歳）が結婚指輪をうつかり彼女の腕に落としたら、肩までするりと通ってしまった。「たいいていの両親は、赤ちゃんの体重が自慢だったりするものだが、フィッツジェラルド医師は続ける。「アンとケン夫妻にとつて娘の体重は恐怖でした」「ショックでした」とアンは、夫婦にとつて初めての子どもが生まれできた姿を見た瞬間の気持ちを表現している。夫が娘を抱くまでには、それから一週間かかった。アンは続ける。「私が始めて娘を抱いたときは、もちろん、あまりの小ささに泣きました。かぼそい心臓の鼓動を聞くだけでも泣けて仕方なかった。自分と比べた時のその体の小ささを思い、娘の顔すらまともに見られませんでした」

ハレアは貧血症、心拍数減少、無呼吸などの症状から来る呼吸困難を、見事に克服した。知能・脳波は9月12日（出産予定日）生まれの他の一ヶ月児と比べて二週間ほど遅れているものの、順調にすくすくと育っている。医師達は今後も彼女の成長を注意深く見守り続けるだろうが、特別な治療いらずで、健康な毎日が送れるだろうと見通しは明るい。

未熟児で生まれて、懸命に治療される赤ちゃん。丸々と成長していても中絶される赤ちゃん。親の心に頼っている

ダン・ローズ

【幼児】について考える

カトリック教会における幼児

(2003年6月150号の続き)

二、現在が人間の理想状態

第二の面は、幼児は現在の状態そのものにおいて、神の間であるというこ

とである。今後の発育とか発展とか将来性などは無関係に、現状自体が大

きな価値をもっていとされる。これは、イエスの教えに基礎を置く、キリス

ト教固有の理解である。

A 幼児はキリスト信者の正しい在り方の手本

「神の国はこのよ

うな者たちのもの」：幼子のように神の国を受け入れる者でなければ決し

てそこに入ることはできない」(マルコ 十・14、15)、「ユダヤ

をいれ替えて幼子のようにならなければ、天の国には入れない。この幼子のようになる者が、天の国

で一番偉い」(マタイ 十八・3) 4、などのイエスの言葉がこれを教えている。

われわれは幼児を養育するとき、こちらを完全に信頼しきつて

いる幼子の姿に接する。幼子は無防備であり、完全にこちらに依存

している。何かを提供してくれるこちらを自然に受け入れ、こちら

に対してこちらを開いている。これはまさに神を全幅的に信頼しよ

B 現状そのままに愛された価値ある存在

イエスによって身近に招かれ、抱きしめられ、祝福されるのが

幼児である。「幼子たちがわたしの許に来るのを止めてはならない」と言われたイエスは、「幼子

たちを抱き、かれらの上に両手を置いて祝福された」(マルコ 十・16)

カトリック哲学は、このイエスの教えを基にして、さらに、幼

児には神が万人に等しく与えている霊魂があり、人格の尊厳である、と理解してきた。

幼児はそれ自体で、すなわち現状のまま、本質的に不可侵

の尊厳をもって、将来一人前になるからとか、成長して立派な人間にならねばならぬとか、

どのような可能性や能力をもつかとか、どの発達段階にあるとか、障害のありなしや遺伝的資

質や健康状態がどうか、などとは関係なく、それ自体で本質的に価値がある、というのである。この考え方はそのまま胎児の問題や障害者の問題などにも適用され、カトリック倫理の基本原則とされる。

宮川 俊行

(カトリック長崎教区報

【言の波 #9】より転載)



人間の尊厳を尊重するのは、

人権を守ること

1月22日は、我が国の最高裁判所が、産まれる前の子ども達に恐ろしい死刑判決を下した記念日である。中絶は、最も陰惨な、究極の幼児虐待である。

新世紀に入り、神は、神の御言葉と、ユダヤ・キリスト教が伝えてきた最も高尚な道義に基づき、博愛についての新しいビジョンを確立するようにと私達におっしゃっている。人間の歴史におけるこの新しい瞬間に、いのちの文化を形成することが求められ、子宮から墓場まで、受精の瞬間から自然にいのちが尽きるまで、神に定められた人生のどの発育段階にあるいのちでも尊重することが求められている。

人間の尊厳を尊重するということは、広く人権を守ることである。アメリカ人として、またキリストを信じる者として、カトリック教徒は、どの発育段階にあるいのちも、どんな状況にあるいのちも、擁護することに尽くさなければならぬ。カトリック教会は、

いのちへの一貫した倫理的アプローチをもって、いのちの文化を信奉し支持する。そして、すべての人のいのちは、神に似せて造られたことから、神聖なものである

と教えている。だからこそ教会は、死の文化を助長する行為、例えば、中絶や安楽死や死刑を非難する。悲しいことに我が国は、

家庭内暴力、麻薬の蔓延、いのちを危険にさらす結婚外の性交、貧困、教育や医療の欠如、そして世界の生態環境バランスへの無謀な介入など、死の文化を目的

当たりになっている。死の文化は、私達の国の外にも広がっている。凶作と飢饉、世界のあちこちでの医療と開発の拒否、武力衝突の暴行、またそういう衝突を引き起こすけしからぬ兵器取引等。

人間のいのちを尊重するには、この様な脅威や他の脅威からいのちを守らなければならぬ。また、人の生活状態を高めるために、国内外で最も困っている人から順に、食糧や住居や意義のある仕事を提供しなければならぬ。しかし、今では中絶や安楽死が、人の尊厳を脅かす顕著な脅威となっている。何故なら

これらはいのちそのものを、人間の最も基本的な大切なものを、直接襲うものだからである。こ

ういう非道な行為は、一番の弱

(3ページへ)

十代の性 (35)

問い： 僕が彼女を大切に思っていることをどうしたら彼女に伝えられますか？彼女も僕のことを大切に思っているかどうか、どうしたらわかりますか？



平和を破壊するいちばん恐ろしいものは墮胎です。なぜなら、子どもを殺すのはその子の母親自身だからです。…若い女性達は両親を恐れ、世間の人々を恐れるあまりに、墮胎することがよくあります。でも彼女たちを助けなければなりません。

(マザー・テレサ)

(2ページから)

者、最も無防備な者、正に貧民中の貧民に行われていた。人間のいのちに関して第一人者のヨハネ・パウロ2世は、こうおっしゃ

答え： あなたの御両親があなたを愛していることは、御両親の行動や、あなたの為に払っていらっ

しやる犠牲を見ればわかるでしょう？同じように、あなたの彼女にも態度や行動を通して、大切に思っていることを伝えられるのです。何かすごいことをしてあげよう、等と考えることはないのです。ささやかな優しさや心使いの方が、もっと現実的です。例えばにっこり笑いかけたり、明るい顔をしたり、優しい言葉や誠実な褒め言葉をかけたり、こういうことで、彼女は一日中嬉しく過ごせるのです。自分の考えや好みを押し付けたり、理不尽な要求をしたりしないで、彼女を尊重し、彼女の言うことを聞いてあげる努力をするべきでしょう。彼女があなたを大切に思っているかどうかについては、彼女の態度や行動の意味するところを読み取るように、あなたがもっと鋭くなる必要があります。時間が経って、お互いに対して正直になれるまでに関係が発達したら、お互いの気持ちを手手に伝えられるようになるでしょう。

る。「中絶や安楽死や自殺援助が、神からのいのちと愛の贈り物を拒否する行為だということに、信者として気が付かないわけにはいかない。また信者として、病める人や困っている人を私達の愛と手助けで暖かく包んで、生きることが喜べるようにしないわけにはいかない。」(ヨハネ・パウロ2世)

一九七三年の裁判所での恐ろしい判決以来、4千万人の赤ちゃんが殺されている。パルシヤル・パス・アポーションの出現により、この暴虐な行為は衰えることを知らない。7、8センチだけ、数秒だけこの世に生まれ出た赤ちゃんが、頭の後ろにハサミを突っ込まれて殺され、死んだまま出産される。恐ろしいことはこれだけで終わらず、

これら中絶された子ども達の組織や身体の一部が売買されているのも事実である。フィラデルフィアの人口と同じ位の人数が、毎年の中絶によって殺されている。ヨハネ・パウロ2世は、「胎児のいのちは、母親の子宮の中で守られ養育される権利がある。なぜなら胎児には生来の尊厳があるからである。この尊厳は胎児自身のもので、それが遺伝子学上の親であろうと医療関係者や国であろうと、他人から与えられたものでも、許可されたものでもない。」と力説する。

神に忠実な私達は、中絶を宗教上の問題として見るし、それは間違っていない。しかし、本来これは公民権の問題である。アメリカの憲法は、「生きる権利、自由と幸福を追求する権利」を保証している。最高裁判所は一九七三年のロー対ウエイドの判決で、産まれた後であろうと前であるうとすべての人間に「創造主から与えられ」、「人が奪うことの出来ない」生きる権利を、傲慢にも取り上げてしまった。子どもは母親の胎内に10ヶ月間入っているが、その胎児は遺伝学的にも独立した個人である。その個人を殺すことが、どうして合法的なのか？

私達にとって自然資源は非常に大切である。私達は当然として森や湖、絶滅の危機にあるすべての植物、海中生物、動物を保護している。であるのに、この国では毎日四四〇〇〇人の子ども達を中絶によって殺させている。どの国でも、一番大切な自然資源は子ども達であるのに。

中絶に関する議論で最も焦点となるのは母親と胎児であるが、カウンセラーや研究者によれば、胎児の父親の態度が、女性が中絶を決心する最も重要な要素の一つになっている。中絶するかしないかを決定する負担を女性が担っているにも関わらず、子

どもの父親のサポートや関わり合いがあるかないか、また女性が男性のサポートや二人の関係はどう見ることが、多くの場合決め手となる。父親となるはずの男性の態度が、妊娠している女性のストレス、不安、憂うつ感の重要な原因となる。

妊娠して悩んでいる女性や中絶した女性は、私達からのいたわりや手助け、すなわち、感情的な、精神的な、心理的な、経済的な手助け、そして祈りを必要としている。又私達は、この重大な事態における責任を男性にも自覚させ、適切に補助しなければならぬ。

約二〇〇〇年前、若い未婚の女性に天使が妊娠を告げた。ヨセフという男性に支えられて、マリアという若い女性が困難な状況の中でキリストを産むと勇気を持って決心したことは、予期しない妊娠にどう対処すべきかという神の方針の Handbook とし、今も残っている。もしイエスの母のマリアが、神の意志に従う代わりに中絶をしていたら、今日の私達の生活はどう変わっていただろう。ルカによる福音書に出てくる聖母マリアのご訪問の場面での、二人の未来の母親の情のこもった出会いは、胎児が受胎の瞬間から個性を持つことを、強く表している。

マイケル・ファイファー司教

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円
一万円 五千元 一千元

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さいのちを大切に育みましょう。

御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り

いつもは聞こえない昼間の時間帯に、夏休み中の子どもたちの元気な声が響く頃です。皆様如何お過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。
事務所は引越しました。でも電話とファックスの番号や電子メールのアドレスはそのままです。住所のみ、上記の住所が新しいものですので、皆様の住所録を書き換えて下さいますようお願い致します。

代表者は手術のあと、重いものは持てませんでしたが、沢山の荷物を運ぶためにボランティアの方々が御自身の車を出して下さったり、階段を運んで下さったりと大勢の方々に助けていただきながら、無事終わりました。新しい場所でも、気分も新たに、スタート同、皆に支えられながら再スタートです。

新しいプロ・ライフ資料が仲間入り致しました。それは、ビデオでマザーテレサの生涯をアニメーションで紹介したものです。題は『いのちを守る勇気』！是非日曜学校の教材に、また、御家庭の子どもさんへのプレゼントに御利用頂ければうれしいです。費用は七千円+送料となっております。

社会一般の性教育はあまりにも考えさせられることが多すぎます。子どもたちがいのちの正しい理解が出来るように先ず、私たちの周りから良い資料を紹介して行きたいものです。プロ・ライフ・ニュースのことを、そしてプロ・ライフ資料のことをどうかあなたのお友達にお知らせ下さいませ。

暑くて寝苦しい日々が続くでしょうが、皆様どうぞお体にお気をつけて毎日をお過ごしになられますように。:

(日本プロ・ライフ・ムーブメント)

上記のとおり住所のみ変更しています。

ビデオ『沈黙の叫び』をみて

■ 子どもはかわいそう

私は中絶することに絶対反対です。なぜなら、これから生まれていこうとする命を殺すことになるからです。中絶には絶対に反対と書いたが、その状況によって中絶しなくてはならない場合があると思います。一度中絶をしようとして、諦めて出産をして、なにも知らない子どもはかわいそうである。子どもが大きくなって、もし母親がその子どもに、「あなたを産むか、一度迷ったのよ」と告白したら、子どもはどう思うだろうか、絶対に悲しむと思います。私がその子どもの立場だったら悲しんで、母に「どうして?」とその理由を尋ねると思います。

■ 社会を変えていく

私はあのビデオを見て、一番強く感じたことは、なぜあんなに苦しんでまで中絶をしなければ成らないのかということ。赤ちゃんを中絶することは確かに人殺しと同じことだと思っし、私は絶対に中絶には反対します。どんなに小さくても人としての人権を尊重すべきだと思います。

保健の教科書に、若い人ほど、中絶の数が多くと書いていたグラフを見ました。私はガツクリとします。そういうことが無い世の中になって欲しいとおもいました。

I・Tさん(高三生)

N・Aさん(高三生)

読者の声

どつてしまいました。

生命が神よりのものとは、私の場合「神が許して下さい」ことをもって分りました。とりあえず、切手を送ります。役立て下さい。

慰安婦問題などをとおして、生命以前のことについても考えてみたいと思います。又、お便り致します。

出来ることがありましたらお知らせ下さい。(知人にニュース、その他送るとか)

新潟県 K・Sさん